

講義の目標

- 2つの自由について理解する。
 - 作為と不作為の許可としての自由
 - 自律としての自由
- 法が2つの自由をどのような方法で守っているのかを理解する。

1 作為と不作為の許可としての自由

1.1 規範

- 規範：規範文の意味内容、理想的な状況の記述
- 規範文：義務様相を含む文
- 義務様相：様相（modality）の一解釈
- 様相：文に対する話者・書き手の態度を表すもの。法助動詞（modal auxiliary verb）で表現される。

	must	may
真理様相 (alethic modality)	It is necessary that (\square)	It is possible that (\diamond)
義務様相 (deontic modality)	It is obligatory that (O)	It is permitted that (P)

1.2 義務様相

1.2.1 義務様相の表現方法

命令演算子 O (It is obligatory that)

禁止演算子 F (It is forbidden that)

許可演算子 P (It is permitted that)

また、「～が～をする」という命題を V とし、

「 V は命じられている」という文を OV

「 V は禁じられている」という文を FV

「 V は許されている」という文を PV

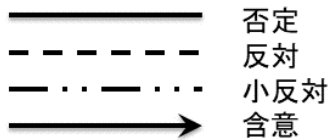
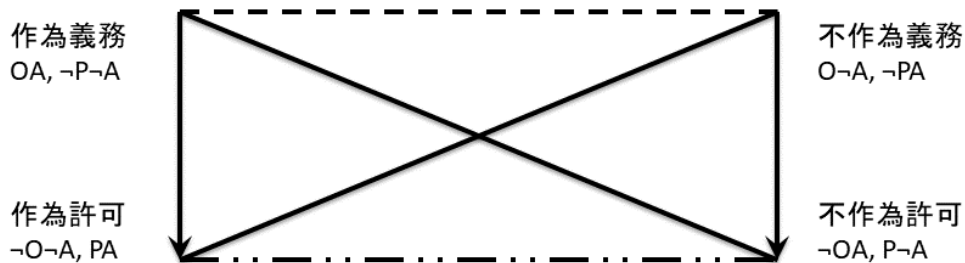
と表す。

	O	F	P
1 命令 (作為義務)	OV	$F\neg V$	$\neg P\neg V$
2 禁止 (不作為義務)	$O\neg V$	FV	$\neg PV$
3 作為許可	$\neg O\neg V$	$\neg FV$	PV
4 不作為許可	$\neg OV$	$\neg F\neg V$	$P\neg V$

1.2.2 命令・禁止・許可の関係

- 否定：命令 (OV) と不作為の許可 ($P\neg V$)、禁止 ($O\neg V$) と作為の許可 (PV) は互いに「否定」の関係にある。すなわち、いずれか一方の規範が真ならば他方は偽、いずれか一方の規範が偽ならば他方は真。
- 反対・小反対・含意
 - 反対：命令 (OV) と禁止 ($O\neg V$) は「反対」(contrary) の関係にある。すなわち、同時に真となる場合がない（一方が真で他方が偽だったり、両方とも偽となる場合はある）という関係。
 - 小反対：作為の許可 (PV) と不作為の許可 ($P\neg V$) は「小反対」(subcontrary) の関係にある。すなわち、同時に偽となる場合がない（一方が真で他方が偽だったり、両方とも真となる場合はある）という関係。
 - 含意：命令 (OV) と作為の許可 (PV)、禁止 ($O\neg V$) と不作為の許可 ($P\neg V$) は、前者が後者を「含意」する (imply)。すなわち、前者が真ならば後者は真、後者が偽ならば前者も偽。

義務様相の四角形 (deontic square)



■練習問題 1

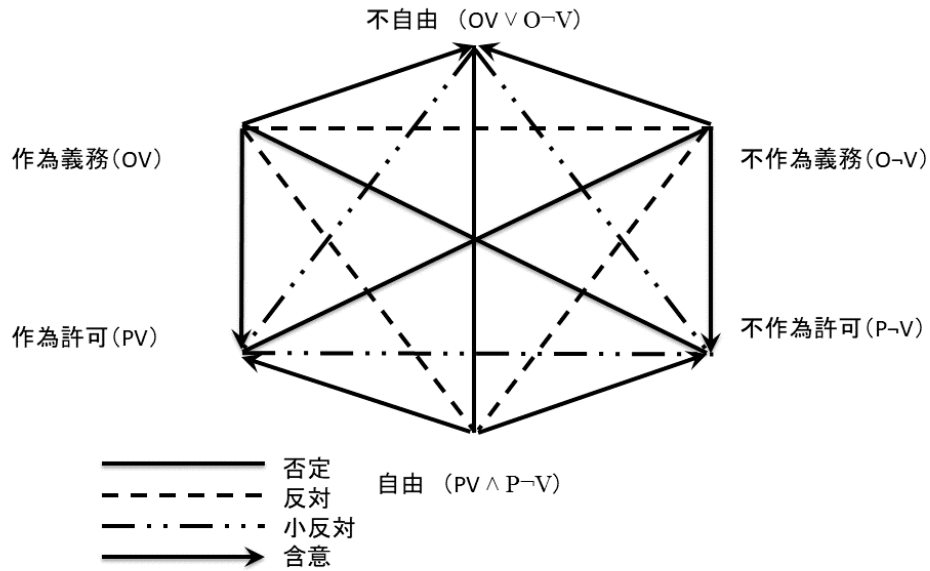
1. 次の文は正しいか？
 - (a) 移動しないことが義務づけられている場合、移動することは許されていない。
 - (b) 移動しないことが義務づけられていない場合、移動することは義務づけられている。
 - (c) 移動しないことが許されている場合、移動することは許されている。
 - (d) 移動しないことが許されていない場合、移動することは許されている。

2. 「バイク通学が禁じられている」が真である場合、以下の発言の真偽は？
 - (a) 「バイク通学が許されている。」
 - (b) 「バイク通学が義務づけられている。」
 - (c) 「バイク通学をしないことが許されている。」

3. 「煙草を吸うことが許されている」が真である場合、以下の発言の真偽は？
 - (a) 「煙草を吸うことが義務づけられている。」
 - (b) 「煙草を吸うことが禁じられている。」
 - (c) 「煙草を吸わないことが許されている。」

1.3 自由と不自由

- 自由：作為が許されており、かつ、不作為も許されていること。 $PV \wedge P \rightarrow V$
- 不自由：作為が命じられている、又は不作為が命じられていること。 $\neg(PV \wedge P \rightarrow V)$ 、すなわち $O \rightarrow V \vee O \vee V$
- 義務様相の六角形 (deontic hexagon)



■練習問題 2

1. 学問の自由がある国についてのつぎの発言の真偽は？
 - (a) 学問をすることが義務づけられている。
 - (b) 学問をすることが許されている。
 - (c) 学問をしないことが許されている。
 - (d) 学問をすることが禁じられている。
 - (e) 学問の自由がない。

2. 宗教を信じる自由がない（宗教を信じることについて不自由な）国についてのつぎの発言の真偽は？
 - (a) 宗教を信じることが義務づけられている。
 - (b) 宗教を信じることが許されている。
 - (c) 宗教を信じないことが許されている。
 - (d) 宗教を信じることが禁じられている。
 - (e) 宗教を信じる自由がある。

2 自律としての自由

イマニュエル・カント（1724-1804年）『人倫の形而上学の基礎付け』第1章冒頭

Es ist überall nichts in der Welt, ja überhaupt auch außer derselben zu denken möglich, was ohne Einschränkung für gut könnte gehalten werden, als allein ein guter Wille.

われわれが無制限に善と認めうるものとしては、この世界の内にも外にも、ただ善なる意志しか考えられない。

- 善意志：自由な意志＝自らが従うべき規範を自らが定める能力。
 - － どのような規範を定めるべきか：普遍化可能な規範
- カントの人間観：感性界と理性（叡智）界に同時に属する存在
- 人間の尊厳
 - － 日本国憲法第13条：すべて国民は個人として尊重される。
 - － ドイツ基本法第1条：Die Würde des Menschen ist unantastbar.（人間の尊厳は不可侵である。）

3 二つの自由を守る方法

3.1 自律と他律

- 自律：自分で自分が従う規範を定めること。その規範が普遍化可能であれば、それを定める意志は「善い」。普遍化可能な規範＝道徳規範
 - － 各自が自分の自由（作為・不作為の許可）を一定程度、自ら制限する（＝命令・禁止規範を定める）ことによって、すべての人の自由（作為・不作為の許可としての）が一定程度確保され、かつ、すべての人が自由（自律としての）になれる。
- 他律：他人が自分の従うべき規範を定めること。その規範の代表例が法規範。法規範は我々の自由（自律）を侵害する。

3.2 他律・法規範の必要性（法の機能）

- 社会統制機能：他人の生命、身体、自由、財産等に危害を加える行為に刑罰を科したり損害賠償を課すことによって、そうした行為を抑止する。（刑事法）
- 交渉促進機能：所有権、占有権などの物権を設定し、売買、賃借などの契約類型を提供することによって、人々の財産関係における社会的な交渉や調整を円滑にする。（民事法）
- 公共財提供機能：政府が人々に課税し、それを財源として公共財を提供したり、社会に資源を配分する。（行政法）

3.3 憲法の役割

- 他律の正当化：国民主権・民主主義（前文）
できるだけ多くの人の自由（自律としての）の実現：国民の相対的多数の間接的同意
 - 他律の制限：基本的人権の保障（前文）
 - － 精神的自由（内心の自由）
 - * 思想・良心の自由（19条）
 - * 信教の自由（20条）
 - * 学問の自由（23条）
 - － 精神的自由（表現の自由）
 - * 表現・集会・結社の自由（21条）
 - － 「経済的」自由
 - * 職業選択，居住・移転の自由（22条）
 - － 人身の自由
 - * 自白をしなくてよい（38条1項）
- その他のすべての行為も、法律がない限り、法的にその自由が認められている（13条）。

以上

練習問題解答

● 練習問題 1

1. 次の文は正しいか？

- (a) 移動しないことが義務づけられている場合、移動することは許されていない。

解答 正しい：「移動しないことが義務づけられている」($O\neg A$)と「移動することは許されていない」($\neg PA$)は同じ意味である。

- (b) 移動しないことが義務づけられていない場合、移動することは義務づけられている。

解答 正しくない：「移動しないことが義務づけられていない」($\neg O\neg V$)と「移動することは(が)義務づけられている」(OA)は、後者が前者を含意している。したがって、前者($\neg O\neg V$)が真の場合、後者(OA)は真か偽(真偽不明)である。

- (c) 移動しないことが許されている場合、移動することは許されている。

解答 正しくない：「移動しないことが許されている」($P\neg A$)と「移動することは(が)許されている」(PA)は互いに小反対の関係にある。したがって前者が真の場合、後者は真か偽(真偽不明)。

- (d) 移動しないことが許されていない場合、移動することは許されている。

解答 正しい：「移動しないことが許されていない」($\neg P\neg A$)は、「移動することは(が)許されている」(PA)を含意する。したがって前者が真の場合、後者も真。

2. 「バイク通学が禁じられている」($O\neg A$)が真である場合、以下の発言の真偽は？

- (a) 「バイク通学が許されている。」(PA)

解答 偽： $O\neg A$ と PA は否定の関係。一方が真なら他方は偽。

- (b) 「バイク通学が義務づけられている。」(OA)

解答 偽： $O\neg A$ と OA は反対の関係。一方が真なら他方は偽。

- (c) 「バイク通学をしないことが許されている。」($P\neg A$)

解答 真：「バイク通学が禁じられている」($O\neg A$)は「バイク通学をしないことが許されている」($P\neg A$)を含意するので、前者が真なら後者も真。

3. 「煙草を吸うことが許されている」(PA)が真である場合、以下の発言の真偽は？

- (a) 「煙草を吸うことが義務づけられている。」(OA)

解答 真偽不明：「煙草を吸うことが義務づけられている」(OA)は「煙草を吸うことが許されている」(PA)を含意する。後者が真の場合、前者は真か偽(真偽不明)。

- (b) 「煙草を吸うことが禁じられている。」($O\neg A$)

解答 偽： PA と $O\neg A$ は互いに否定の関係なので、一方が真の場合、他方は偽。

- (c) 「煙草を吸わないことが許されている。」($P\neg A$)

解答 真偽不明： PA と $P\neg A$ は小反対の関係。一方が真の場合、他方は真または偽(真偽不明)。

● 練習問題 2

1. 学問の自由がある国についてのつぎの発言の真偽は？

解答 (a) から順に、偽、真、真、偽、偽

解説 問は $PV \wedge P \neg V$ (N とする) が真の場合の以下の規範の真理値を尋ねている。

(a) 学問をすることが義務づけられている (OV)。

N と OV は反対の関係。一方が真なら他方は偽。

(b) 学問をすることが許されている (PV)。

N は PV を含意する。 N が真なら PV は真。

(c) 学問をしないことが許されている ($P \neg V$)。

N は $P \neg V$ を含意する。 N が真なら $P \neg V$ は真。

(d) 学問をすることが禁じられている ($O \neg V$)。

N と $O \neg V$ は反対の関係。 N が真なら $O \neg V$ は偽。

(e) 学問の自由がない ($OV \vee O \neg V$)。

N と $OV \vee O \neg V$ は否定の関係。 N が真なら $OV \vee O \neg V$ は偽。

2. 宗教を信じる自由がない (宗教を信じることについて不自由な) 国についてのつぎの発言の真偽は？

解答 (a) から順に、真偽不明、真偽不明、真偽不明、真偽不明、偽

解説 問は $OV \vee O \neg V$ (N とする) が真の場合の以下の規範の真理値を尋ねている。

(a) 宗教を信じることが義務づけられている (OV)。

OV は N を含意する。 N が真の場合、 OV の真偽は不明。

(b) 宗教を信じることが許されている (PV)。

N と PV は小反対の関係。一方が真である場合、他方の真偽は不明。

(c) 宗教を信じないことが許されている ($P \neg V$)。

N と $P \neg V$ は小反対の関係。一方が真の場合、他方の真偽は不明。

(d) 宗教を信じることが禁じられている ($O \neg V$)。

$O \neg V$ は N を含意する。 N が真の場合、 $O \neg V$ の真偽は不明。

(e) 宗教を信じる自由がある ($PV \wedge P \neg V$)。

N と $PV \wedge P \neg V$ は否定の関係にあるので、 N が真なら $PV \wedge P \neg V$ は偽。

質問は足立までメールで：hadachi@staff.kanazawa-u.ac.jp

Web：https://law-kanazawa.info/